



冬の水辺は水鳥のオアシス①

～カモや身近な水鳥たち～



こんな都会の真ん中でも毎年決まってカモが渡ってくる。沖繩の水辺の鳥は、一年中暮らしているものは少なく、ほとんどが渡り鳥。本土や外国から何千キロという旅をして新都心の水辺に帰ってくる。夏にシバリアなどで子育てを終えたコガモやタシギなどが暖かく、餌のたくさんあるこの場所を冬の住みかとして利用している。クイナの仲間やサギの仲間には一年中暮らす水鳥もいる。



カワセ (留鳥)

この鳥はヤンバルクイナに似ていて、黄色いくちばしに赤い「がくばん」と呼ばれるくちばしの一部のようなものがついている。田んぼや川、池などの水辺に暮らす、沖繩で一番身近な水鳥。



カワセミ (留鳥)

「水辺の宝石」と呼ばれる青い羽がきれいなとても人気のある鳥。川や池で、枯れ枝や石の上から魚をねらってダイビングする。



カルガモ (冬鳥・留鳥)

県内で見られるカモの仲間では、この鳥だけが繁殖が確認されている。東京の皇居のお堀で、家族で引越している鳥も有名。



コイサギ (留鳥)

夜空を「コラッ、コラッ」と鳴きながら飛ぶサギの仲間。声がカラズに似て、夜に鳴くことから方言で「コーカラザー」(夜カラズ)と呼ばれる。

リュウキュウクワシクイナ (留鳥)

2003年に新都心で子育てが確認されている。いつも草むらなどに隠れていてあまり見られない。県内で数少ない繁殖する水鳥。



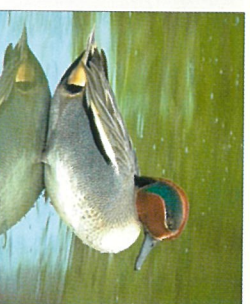
イソシギ (冬鳥)

水辺の渡り鳥の中では最も普通に見られる鳥。水辺の生きもののほか、昆虫も食べる。



セイタカシギ (冬鳥)

赤い長い足が特徴で「水辺のパレリーナ」と呼ばれるかわいい鳥。



コガモ (冬鳥)

まるで置物のようにかわいらしい姿をしていて、沖繩に渡ってくるカモの仲間では一番小さい。



ハクセキレイ (冬鳥)

水辺にもいるけれど、学校の校庭や公園の芝生など、開けた場所の地面に多いことが多い。「チチン、チチン」と鳴きながら飛ぶ。



タシギ (冬鳥)

くちばしが長く、地味なもので長いくちばしを川底やどろに差し込みながら仕そうに餌をとる姿が見られる。



キセキレイ (冬鳥)

川辺や川の中の石の上などに止まっていたり、歩きながら虫などを探している。形も大きさもハクセキレイに似ているけどキセキレイは名前のとおり黄色いので見分けられる。



水鳥ではないけれど...

気持ちよさそうに シラキソバの水浴び

水辺を利用してするのは、水鳥だけではないのを知っているかな？ 実は小さな水鳥たちも水辺が大好き。ここでは、シラキソバやシロカシラカが水浴びをしたり、キジバトがゴクゴクと水を飲んだりする全ての鳥たちにとっても大事な場所なんだ。

Vol. 21

兄弟思いの鳥 ～ハンのヘルパ一行動～

ハンの子供は、若鷹になると、親鷹の次の子供、つまり自分たちの弟、妹たちの面倒を見ることがある。普通の鷹にはほとんど見られない行動で、それは「ヘルパ一行動」と呼ばれている。水辺でよく観察してみよう。水辺の面倒をみる親鷹のほかに、一緒にヒナに餌を与えたり、行動したりするお兄さん、お姉さんハンの姿が見られるよ。

なはエコ博士のなるほど講座





冬の水辺は水鳥のオアシス②

～白いサギを見分けよう～



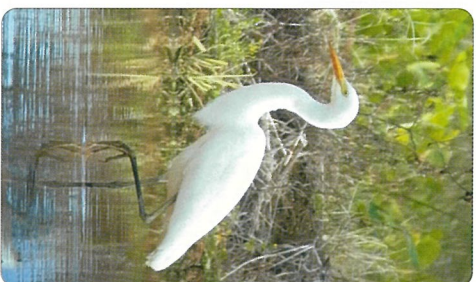
新都心で冬の空を見上げると、白い大きな鳥が飛んでいるのが毎日見られる。みんなが「シラスギ」と呼んでいるけど、この名は実は白いサギの仲間のことなんだ。沖繩で見られる白いサギは5つ下の5種類。みんな水辺が大好きで、魚などの水辺の生きものを餌にしている。畑なんかで、トラクターの後に追いかけているのはアラスギでも、畑の土がひっくり返されるときに出てくる昆虫などをとっている。白以外のサギも2種類いる。アオサギもゴイサギも水辺がすみか。
新都心の水辺では、タイサギやコサギ、アオサギ、ゴイサギがすんでいて、餌をとったり、休んだりする。ここはサギにとっても暮らしやすい場所なんだ。



タイサギ



白いサギの仲間では一番大きい。首も長くて、ゆっくりとした動き。口ばしも他の4種に比べ、だいぶ長く見える。
新都心の水辺で冬はいつも見られ、渡る場所にも使っている。全長89cm。



チウサギ



タイサギの次に大きく、畑や田んぼなどで一人ぼっちでいることが多い。双眼鏡でよく見てみると口ばしの先だけ少し黒い。全長69cm。



コサギ



白いサギ5種の中では、コサギだけが口ばしが黒い。足指が黄色い足袋を履いたように見える。チウサギより小さく、クロサギとはほぼ同じ大きさに見える。タイサギと同じで、冬になると新都心の水辺に暮らしている。全長61cm。



アオサギ

よくツルと間違われる。サギの仲間では日本で一番大きい。新都心ではいつも水辺の高い木で休んでいる。冬に渡ってくる鳥。全長93cm。

その他のサギたち



ゴイサギ

夜、「コロツコロツ」と鳴きながら飛ぶので、沖繩では「ユーカラサー」と呼ばれている。夜行性で、昼間は水辺のうっそうとした木陰で休んでいる。



アマサギ



白いサギ5種のうちで一番小さい。夏の羽が亜麻色になるので、アマサギと呼ばれているけど、沖繩では冬に渡ってくるので、写真のような白い姿。頬をよく見てみると、少しだけ亜麻色が残っている。トラクターで畑を耕しているところから集団でやってくる。八重山では牧場の牛の背中に乗るコ一モラな姿も。全長50cm。



クロサギ



白色型



黒色型

名前がクロサギなのになぜ白い？クロサギには白色型という白いタイプがいて、数もけっこう多い。チウサギより小さく、コサギとほぼ同じ大きさに見える。他のサギが内陸部にもいるのに対し、クロサギはほとんど海で暮らしている。口ばしも足が緑がかかった黄色であることで、他の4種と見分けることができる。全長62.5cm。



私たち、森を造ります！



お庭の手入れをしていると、「あれ？ こんなもの植えたことないよ」というふうに、見知らぬ植物が生えていることがあるんじゃないかな？
それは、小鳥達から人間へのプレゼント（のつもり）。生えてくる植物をよく調べてみると、昔から仲纏にある植物がほとんど。
鳥たちは誰も教えてくれなくても自然に、自分たちの子孫が生き残れるよう、遠い未来のために木を植え続けている。それだけではなく、みんながその木を大事に残してくれれば、木につく虫も食べてくれる。まさに天然の農薬だ。森の鳥たちは、生まれながらにして、アロの庭師なんだ。

種まき担当



ヒヨドリ

「キイキイ」とするどい声で唄くのはヒヨドリ。いろんな実を食べる。方言で「スーサー」と呼ばれる。



キシバト

「子テ、ポツポツ」と木の上や電線で唄いている。落ちてくる実を歩きながら食べるのをよくみかける。



シロガシラ

頭に白いわたぼうしをのせた鳥。カシユマの実やアカギの実を食べる。



メジロ

小さくて目の周りが白いかわい鳥。小さい赤い実を食べたり、サクラやヤブツバキの花の蜜を吸う。



ヒカンザクラ

花の蜜もメジロには人気。シヤムにしてもおいしい。



コモシロ

石灰岩地の植物で、赤い実をたくさんつける。



オオシロコバシノキ

丸い葉と、赤い実がかわい。



アカギ

この実が熟すると、くさんの鳥がやってくる。



ホソバムクゲ

細長い葉で、触ってみるとザラザラ。赤い実をつける。ガジュマルと同じ仲間。



シラカブ

昔は子供たちが口を紫色に染めて帰ってきた。甘くておいしい。



タノキ

赤い新芽がきれいな木。黒紫色の果実はキシバトが大好き。

管理(虫とり)担当

この鳥たちは虫取りのアロで、種類によって餌を取る場所も取り方もちがう。ツバメの仲間は飛びながら、空中キヤツチをするし、シシユウカラは森の中で木の枝や幹にいる幼虫をたたく食べる。シロハラは森の地面で落ち葉をひっくり返してかくれている虫を食べる。
いろんな鳥がいるんな方法で虫を食べるので、虫たちのほうもかくれんぼがうまくなるのはわかるね。また、メジロやヒヨドリみたいにくだん果実を食べる鳥たちも、子育ての季節になると虫をとる。子育てには栄養満点の虫が必要だから。



ツバメ

春には東南アジアから繁殖地である日本本土に向かう途中に、秋にはそのコートを南へ向かう途中に仲纏で羽を休めること多い鳥。いろいろいるから昆虫類を食べている。



セツカ

県内に一年中暮らす鳥で、草原で草について、黒も草原につく。春から夏にかけての子育ての季節にはヒツヒツツ、チチン、チチン、チチンと鳴きながら飛ぶ。



シシユウカラ

県内に一年中暮らす鳥で、胸の黒いラインが特徴。森の中で木についた昆虫の幼虫などを食べている。



シロハラ

秋に冬を過ごすために大陸から渡ってきて、春には帰る冬鳥。森や林の下でカサカサと落ち葉の音がしたら、シロハラはわき。冬の寒い時に虫がどこにかくれているかちやんと知っている。



イソヒヨドリ

名前のとおり、昔は海岸(磯)に多い鳥だったけど、今は街裏らしさがつかない。メスだけ。冬はヒヨドリに似ている。ちよととした細や林で昆虫をとる。子育ても自宅や工場の屋根でする。



ウグイス

鳴き声の「ホーホケキョ」はどでも有名。森の中や林に近いメスで暮らしている。林の中で枝をこりながら虫をとっている。冬は「チヤツチヤツ」と地味な声でなく。



リョウキョウツバメ

ツバメとちがって渡りをする。街中から森の上へ、畑など、養豚団地や牛舎など集団でいる。ツバメと同じく飛びながら昆虫類を食っている。



リョウキョウツバメ

夏に子育てのために東南アジアから渡ってくる鳥で、目のまわりのコバルトブルーが美しい。オスは尾が体長の3倍近くもある。暗い森林のなかで飛び回りながら飛んでいる虫を捕らえる。

Vol. 22

鳥を呼ぶ庭

～パートガータニツクのスズメ～

鳥がよくおとすれる場所って、鳥にとって何かいいことのある場所なんじゃないかな？ たとえば、実のなる木があったり、水辺があったり、虫たちがちやんとすんでいたりと、巣がつかれそうなお木があったり…。それとこれらの鳥たちはほとんど在来植物（昔から自然に生えている植物）を餌としているんだ。もしみんなの家にも鳥たちを招待したいのなら、まわりにもちよとあつた自然を観察して、鳥がどんな木を利用しているか調べてみよう。冬に餌のミカンやパンくずとかを置くのもいいね。それと、落ち葉をひっくり返して虫を探そうアロハのために、落ち葉を腐してくれるのもいいね。そうするとこの鳥たちが植物の種をブシシットしてくれるはず。それを大事に育てたら、いつのまにか鳥を呼ぶ庭になっているはずだ。

なほエゴ博士のなるほど講座



注意：餌をあげるのは冬だけにしよう。